

【地域からの事前質問に対する回答①】

担当： 経済環境部

【質問事項（題目）】

村松細浦中央排水路について

【質問要旨（内容）】

細浦中央排水路の通称「鉄板橋」より下流側が地盤沈下により機場まで容易に流れず常に溜まった状況にある。また、圃場の復水路の柵の開口部が狭く、豪雨時はごみ等が溜まり、圃場に逆流する状態である。

更に排水機場の「ポンプ能力（3、900 m<sup>3</sup>/h）>水の流入量」となっておりポンプの能力がまったく機能していない。従って今年も、水田に水があるため農業用機械が入れず耕作者は作業が出来ず大きな影響があった。

上記の問題を解決する具体的な方策をお伺いしたい。

【回 答】

細浦の水田整備は、平成13年度から平成19年度にかけて、県営ほ場整備事業ならびに、県営湛水防除事業として整備されてきたところです。

今回のご指摘である、復水路の柵については、土砂の堆積等によるところも有ると思われまますので、今後、柵付近の浚渫作業や柵の改修等について協議していきたいと考えております。

また、排水機場は、周辺環境の保護と緊急時対策を最大に図るために、排水能力を最大に生かせる設計となっており一定の水量が保たれた場合稼働するものとなっております。

ほ場は、特に中央排水路が、地形や、車両重量の圧力により、沈下の影響がでてきております。これまでも幾つかの不具合が生じてきておりますが、県の県北農林事務所等とも相談しながら、また、細浦土地改良組合の皆さんとも相談をしながら、問題の解決に努めてまいりたいと考えております。

【地域からの事前質問に対する回答②】

担当： 経済環境部

【質問事項（題目）】

村松虚空蔵尊・大神宮付近の観光整備について

【質問要旨（内容）】

東海村には歴史的な視点からも非常に重要な建造物が現存しており、特に宿地区には日本三体虚空蔵の一つである村松虚空蔵が、その奥には大神宮があり、年間を通して多数の参拝客が訪れている。これらこそは国の財産であると同時に東海村の財産でもあり、村おこしの意味でも非常に重要な観光スポットである。

しかし、これら歴史的建造物付近の環境（観光・交通・駐車場など）が十分に整備されているとはいえない状況である。

この状況は、今後の「村の発展・村づくり」、「村おこし」を行っていく上で改善を図っていく必要があると考えているが、東海村の行政として「村の発展・村づくり」、「村おこし」の観点から、どのようなビジョンをお持ちであるかお伺いしたい。

【回 答】

ご指摘のとおり、白砂青松に囲まれた村松地区には、古の時より、日本三体虚空蔵尊の一つとして多くの人々に親しまれてきた村松虚空蔵尊や大神宮があり、年間を通じて多数の参拝者が訪れていることは周知のとおりです。

これまで、村は観光資源となるこれらの歴史的建造物を観光資源の一つとして最重要しながら、さわやかトイレの整備や門前町に相応しいまちづくりを目指すため、その都度、整備してまいりました。

昨今は、虚空蔵尊社務所を勇壮な建物に衣替えをした結果、その周辺を取り巻く門前町の風貌が整いつつあるものと拝見しております。

一方で、本村は神仏が並存している極めて稀な環境にあります。本来ですと神社仏閣により、門前町の様相を醸し出しているものと思われませんが、極めて稀有な佇まいになっております。

いずれにいたしましても、門前町の整備にはこれらの状況を踏まえ、観光協会や商工会・行政・村松地区の人を交え協議しながら村松地区のまちづくりを考えて行かなければならないと考えております。

【地域からの事前質問に対する回答③】

担当： 経済環境部

【質問事項（題目）】

東海村における今後の原子力政策と安全対策について

【質問要旨（内容）】

昨今、世界各地ではエネルギー資源を確保する競争が激化し、化石資源の枯渇が問題視されている中で、日本におけるエネルギー自給率の低さは危機感を抱かずにはいられない。また、地球環境維持の観点から CO<sub>2</sub>問題がまさにクローズアップされ、世界各国で原子力への回帰がなされつつある。

原子力と言えば、東海村こそが日本で初めて原子の火が灯った、まさに原子力発祥の地であり、以来、原子力開発の中心地となっている。私たち東海村住民はその歴史の重みを認識するとともに、これを誇りに思い、日本のエネルギー問題の解決に貢献する使命を担っていると自負している。

このような東海村としての使命を正しく認識し、東海村における今後の原子力政策について、将来展望やビジョンをどのように描き、東海村をどのように発展させていくのか、その具体策があればお聞かせ願いたい。

また、原子力施設における事故時の対策、具体的な対応策についても、どのような規模の事故を想定し、検討されているかお伺いしたい。

【回 答】

現在、原子力発電は日本の電力の3割を担っており、資源小国の我が国では重要な基幹電源でありますし、CO<sub>2</sub>排出規制の観点からも有効であると認識しています。廃棄物の処理処分など、核燃料サイクルを完結させるための課題も山積していますが、村としては村民全員の安心・安全の確保と本村の将来を第一に考え、今後も原子力事業所が行う事業活動などを注視していきます。将来像としては、原子力に依存しきらず、安全を最優先に、真の原子力との共存が可能な村を目指したいと考えます。また、本村には世界一の陽子加速器「大強度陽子加速器施設（J-PARC）」がありますので、原子力と対を成す放射線の利用を軸とした将来も望めると考えます。加えて、世界中の原子力発電需要が伸びる中で、日本の技術力を活かし、安全確保のための意識・体制を備えた原子力安全保障の中心として、国の安全規制組織の本拠地的な役割を果たしていければ良いと考えています。

## 照沼小学校区

原子力防災については、原子力発電所における災害（原子炉冷却材喪失及び主蒸気管破断）を最大想定としており、村内全域が国の防災指針の示すEPZ（Emergency Planning Zone：防災対策を重点的に充実すべき地域の範囲）に含まれることから、非常用食料・水の備蓄、安定ヨウ素剤の配備、防災資機材の整備を行っています。また、避難が必要な場合に備え、茨城県とともに自家用車を用いた避難、交通規制のあり方など、避難計画の検討、検証を行っています。更に、避難が広域に亘る可能性があるため、隣接市とも協議を行い、本村からの避難住民の受け入れ等について対応を図っています。なお、原子力のみならず、災害発生により皆様に避難等の対応をお願いする場合は、防災行政無線等を使用して皆様にお知らせします。